

「ETセンター受精卵ユーザーからの質問コーナー」

受精卵牛の同期化処置が妊娠期間、性比、分娩の難易に及ぼす影響について

「ユーザーからの質問」

受精卵牛を同期化して受精卵を移植したところ、PGF同期化群で分娩予定日より遅れて出産した牛が2頭連続しました。また一部に軽度の難産があり、これはPGF投与による、何らかの影響があったのでしょうか？なお、受精卵牛ならびに産子とともに健康です。少し心配なので、何か情報があったら教えてください。

「センターからの回答」

今年のブラジルでの国際受精卵移植学会でこれに関する発表が1題ありましたので、その概要を紹介させていただきます。

S.Fuentes and J.De la Fuente(スペイン)の報告概要
Theriogenology 2002, VOL57 №1 P542より引用

14-17ヶ月齢のホルスタイン種未経産牛の性周期7日目にETを実施し、受胎した680頭の分娩成績を検討した。自然発情でET・分娩例は183頭、PGF製剤（クロプロステノール500 μ gの2回投与）で発情同期化後にET・分娩した例は307頭であった。またリセット区として低単位の過剰排卵後にET・分娩した例は190例であった。全例エチレングリコールのダイレクト凍結卵を移植した。

- ① 自然発情区の妊娠期間は 276.2 ± 2.9 日、PGF区は 275.7 ± 3.2 日、リセット区のそれは 275.2 ± 3.3 日で3区間に有意差は認められなかった。
- ② 雄：雌の産子の性比は自然発情区48:52、PGF区53:47、リセット区50:50で3区に差は認められなかった
- ③ 分娩難易度を1から4に分類（1は分娩容易、4は帝王切開を必要とする難産）した。自然発情区で難易度3の比率がリセット区より有意に高いほかは特徴的な差は認められなかった。

以上の結果より、同期化処置牛で妊娠期間が延長することはなく、さらに性比や分娩難易に特徴的な影響はみられないことが明らかとなった。

PGF同期化の影響はないと考えられます。参考になれば幸いです。